

日本の主な火山活動

平成 17 年（2005 年）11 月の主な火山活動は次のとおりである。

【噴火した火山】

桜島 [比較的静穏な噴火活動（レベル 2）]

5 日に爆発的噴火が 1 回観測された。その他、ごく小規模な噴火が時折観測された。

諏訪之瀬島 [活発な状況（レベル 3）]

噴火が観測された日が 18 日間あったが、爆発的噴火はなかった。

【活動が活発もしくはやや活発な状態にあるか、観測データ等に変化のあった火山】

十勝岳 [やや活発な状況]

62 - 2 火口は噴煙活動が活発で、高温状態が続いていると推定される。

樽前山 [やや活発な状況]

A 火口及び B 噴気孔群は高温状態が続いていると推定される。15 日に火山性地震が一時的に増加した。

浅間山 [やや活発な状況（レベル 2）]

山頂火口内の高温状態、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量、火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。

三宅島 [やや活発な状況]

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1 日あたり 2 千～ 5 千トン程度で、依然として多い状態が続いている。

福徳岡ノ場 [やや活発な状況]

28 日に変色水が確認された。

阿蘇山 [やや活発な状況（レベル 2）]

火山性連続微動の振幅のやや大きくなる状態が繰り返し観測されるなど、火山活動はやや活発な状態が続いている。

霧島山（御鉢） [やや活発な状況（レベル 2）]

御鉢火口の噴気活動は依然としてやや活発な状態が続いているが、次第に収まる傾向がみられる。

薩摩硫黄島 [やや活発な状況（レベル 2）]

噴煙活動のやや活発な状態が続いている。

口永良部島 [やや活発な状況（レベル 2）]

火山性地震のやや多い状態が続いている。



図 1 今回記事を掲載した火山

末尾の資料

- 期間中に発表した火山情報の一覧表
- 過去 1 年間の火山活動の状況
- 第 102 回火山噴火予知連絡会コメント

注 1 本資料において、レベルは火山活動度レベルを示す。

注 2 記号の意味

- : 噴火した火山
- ◇ : 活動が活発もしくはやや活発な状態にあるか、観測データ等に変化のあった火山
- : その他記事を掲載した火山等の丸付き数字：火山活動度レベル

各火山の活動解説

雌阿寒岳 【比較的静穏な状況】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は比較的静穏に経過した。

十勝岳 【やや活発な状況】

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね 200m で経過した。前期間と比べ噴煙活動に特に変化はみられていないことから、同火口の熱活動にも大きな変化はなく、高温の状態が続いていると推定される。

13～14 日に 62-2 火口付近が震源と推定される微小な地震が一時的にやや増加したが、その他の日は概ね平常レベルで経過した。火山性微動は観測されなかった。GPS による地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

樽前山 【やや活発な状況】

2 日に北海道開発局の協力より行った上空からの観測では、ドーム及びドーム周辺の火口や地熱域の状況に変化はなかった。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、A 火口及び B 噴気孔群の高温状態は依然として続いていると推定されるが、高温域の拡大等は認められなかった。

期間中、A 火口及び B 噴気孔群の噴煙の状況に特段の変化はなかった。

15 日 11 時頃から 22 時頃にかけて微小な火山性地震が一時的に増加した（15 日の日回数 179 回）。震源は山頂ドーム直下の浅部（深さ 1 km 付近）と推定され、前期間までと比べ特段の変化はなかった。地震の増加の前後で噴煙の状況等その他の観測データに変化はなかった。その後、18 から 23 日頃まで 1 日あたり 20 回前後とやや多い状態が続いた。月回数は 360 回で、月回数が 300 回を超えたのは 2001 年（平成 13 年）8 月（372 回）以来である。

火山性微動は観測されなかった。また、地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

1) 赤外放射温度計及び赤外熱映像装置は、物体が放射す

る赤外線を感知して温度もしくは温度分布を測定する測器であり、一方、熱電対温度計はセンサーを直接熱源に当てて温度を測定する測器である。前者は熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

倶多楽 【静穏な状況】

11 月 1 日及び 4 日に行った調査観測、及び 2 日に北海道開発局の協力より行った上空からの観測では、日和山、地獄谷、大湯沼及び奥湯沼の噴気活動、熱活動及び火口の状況に特段の変化はなかった。

地震活動には特段の変化はなく、火山活動は静穏な状態が続いている。

有珠山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

2 日に北海道開発局の協力により行った上空からの観測でも、各火口の状況に特段の変化はなかった。

北海道駒ヶ岳 【静穏な状況】

GPS による地殻変動観測では、わずかな山体膨張が引き続き観測されているが、地震活動、噴気活動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

2 日に北海道開発局の協力により行った上空からの観測でも、昭和 4 年火口の状況に特段の変化はなかった。

恵山 【静穏な状況】

17～20 日に行った調査観測及び 2 日に北海道開発局の協力より行った上空からの観測では、噴気の状況や火口の状況に特段の変化はなかった。

地震活動には特段の変化はなく、火山活動は静穏な状態が続いている。

岩手山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動等の観測データには特段の

変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

秋田駒ヶ岳 [静穏な状況]

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

吾妻山 [静穏な状況(レベル1)]

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

10月27日(前期間)に行った調査観測では、噴気・地熱地帯の状況に特段の変化はなかった。同日に行ったGPS繰り返し観測の結果、2004年秋～2005年秋間は大穴・旧火口付近の地下で収縮を示すとみられる変化が観測された(2003年～2004年秋間では、大穴・旧火口付近の地下での膨張を示すとみられる変化が観測された)。

安達太良山 [静穏な状況]

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

磐梯山 [静穏な状況]

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

那須岳 [静穏な状況]

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

草津白根山 [静穏な状況(レベル1)]

地震活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

浅間山 [やや活発な状況(レベル2)]

山頂火口内の高温状態、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量、火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。

山頂火口からは白色噴煙が連続して噴出しており、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した(最高は11月1日の火口縁上400m)。また、夜間に山麓の高感度カメラ²⁾で微弱な火映が時々観測されており、火口内は依然として高温状態が続いていると推定される(図2)。

8日、21日及び25日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり200～1,000トンとやや多い状態が続いている(図3)。

火山性地震は、上～中旬はやや少ない状態であったが、下旬にやや多くなり20～23日及び25日には1日あたり54～67回発生した。震源はほとんどが山頂火口直下の深さ約1～3kmに集中しており、前期間までと比べ特段の変化はなかった。火山性微動の回数はやや多い状態が続いており1日あたり0～6回で推移した(図2)。

傾斜計及びGPSによる地殻変動観測、及び光波測距観測では火山活動の高まりを示すような変化はなかった。また、国土地理院のGPSによる広域の地殻変動観測によれば、浅間山周辺の基線で2004年10月後半以降観測されていた浅間山山体の膨張を示すゆっくりした伸びが、今年の6月頃から次第に鈍化し、最近はやや縮みに転じている。

2) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が設置。

御嶽山 [静穏な状況]

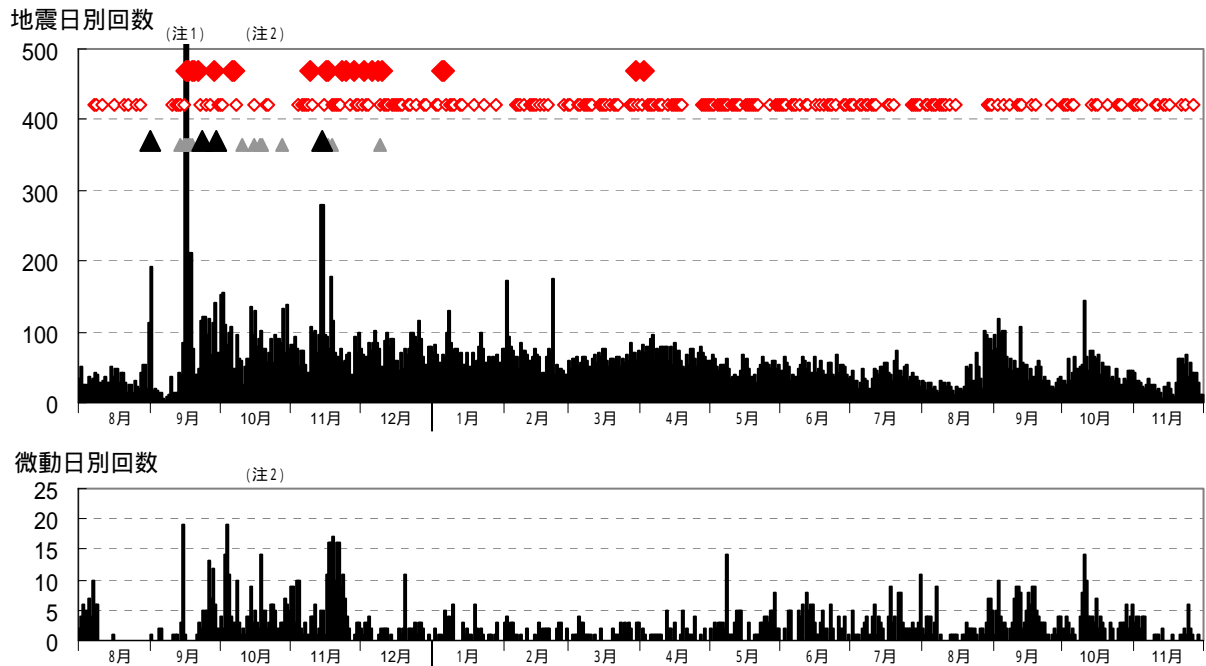
地震活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

富士山 [静穏な状況]

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

伊豆東部火山群 [静穏な状況]

地震活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。



(注1) 2004年9月16日の地震回数は1406回、17日は624回。
 (注2) 2004年10月23日は新潟県中越地方の地震により18～23時の計数不能。

図2 浅間山 2004年8月～2005年11月の噴火、火映、火山性地震及び微動の日別発生状況
 : 中爆発、 : 小噴火以下、 : 火映（肉眼）、 : 火映（高感度カメラ）

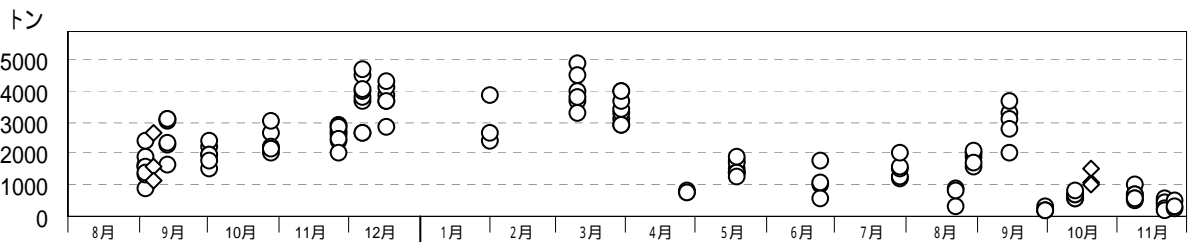


図3 浅間山 二酸化硫黄の1日あたりの放出量（2004年8月～2005年11月）
 : 車載トバース、 : ヘリ搭載トバース

伊豆大島 [静穏な状況（レベル1）]

地殻変動観測では長期的な山体の膨張傾向が継続しているが、噴煙は観測されず、地震活動も7日に一時的な増加がみられたものの（後述）火山活動には特段の変化はなく静穏に経過した。

7日02時から07時にかけて、島の西方沖の深さ4～6km付近を震源とする地震が一時的に増加した。最大地震は04時56分に発生したM（マグニチュード）2.3で、震度1以上を観測した観測点はなかった。その後、地震活動は落ち着いた状態に戻っている。その他の観測データには特段の変化はなかった。この周辺では、これまでもしばしば地震の一時的な多発がみられており、最近では今年7月上旬にも発生している。

三宅島 [やや活発な状況]

多量の火山ガス（二酸化硫黄）の放出が続いている。

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出し、噴煙高度は概ね200～300mで推移した（最高は5日の火口縁上1,000m）。

上空から行った火山ガス観測³⁾では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり1,400～6,300トンと依然として多い状態であった（図4）。三宅村の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

上空から行った火口内の観測³⁾では、火口内温度の最高は約270（22日）で（赤外熱映像装置¹⁾

による)依然として高温状態が続いている。火口内の地形等に特段の変化はなかった。地磁気全磁力連続観測では特段の変化はみられていないことから、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

30日19時～23時に火口直下を震源とするやや低周波の地震が増加し、21時25分、21時35分及び22時55分に空振を伴う低周波地震が発生した。噴煙の状況に変化はなく、その他の観測データにも特段の変化はみられなかった⁴⁾。30日の日回数は130回であった。また、19～24日に一時的な増加が時折みられ、地震回数は21日に日回数が38回となるなどやや多い状態であった。その他の日は少ない状態で経過した。火山性微動は観測されなかった。

GPSによる地殻変動観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続している。

3) 8日、17日、22日及び30日に、警視庁、海上保安庁、東京消防庁及び航空自衛隊の協力により実施。

4) 三宅島では、空振を伴う低周波地震が発生した時に山頂火口から火山灰噴出を伴うことがある。

伊豆鳥島 [静穏な状況]

14日に海上保安庁が上空から行った観測によると、噴気活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏な状態であった。

西之島 [静穏な状況]

28日に海上保安庁が上空から行った観測によ

ると、噴気等は確認されず、火山活動は静穏な状態であった。島の周囲に変色水が確認されたが、火山活動の高まりを示すものではないと考えられる。

硫黄島 [静穏な状況]

28日に海上保安庁が上空から行った観測によると、噴気活動及び変色水の状況に特段の変化はなく、火山活動は静穏な状態であった。

福德岡ノ場 [やや活発な状況]

28日に海上保安庁が行った上空からの観測によると、福德岡ノ場付近で火山活動によると考えられる変色水が2ヶ所確認された。一つは湧出点付近が青緑色、周囲が青白色で南へ長さ約3km、幅約1kmにわたって延びており、もう一つはその西側に黄緑色で南へ長さ約1km、幅約300mにわたって延びていた。噴煙や浮遊物は認められなかった。

福德岡ノ場では以前から変色水がたびたび確認されており、今年7月2～3日には小規模な海底噴火が発生し、その後もしばしば変色水が確認されている。

九重山 [静穏な状況(レベル1)]

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、静穏に経過した。

阿蘇山 [やや活発な状況(レベル2)]

火山性連続微動の振幅のやや大きくなる状態が繰り返し観測されるなど、火山活動はやや活発

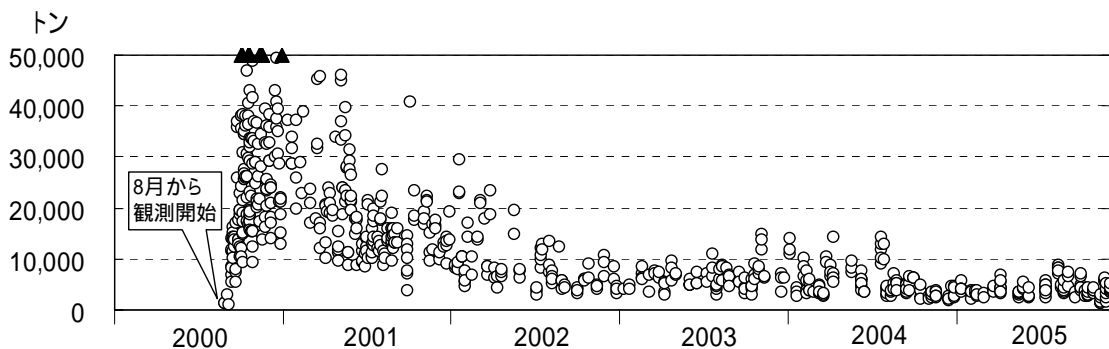


図4 三宅島 二酸化硫黄の1日あたりの放出量(2000年8月～2005年11月)
2004年秋以降は1日あたり2千～5千トン程度で、依然として多い状態が続いている。

(注) は50,000トン/日以上を表す。

な状態が続いている。

現地観測⁵⁾によると、中岳第一火口内の湯だまり⁶⁾は、11月5～6日の降水により量が増加し、8日以降は約8割で経過した（11月1日は約6割）。湯だまりの表面温度は、11月1日の観測では70と高い状態であったが、湯だまり量が増加して以降、57～64とやや低い状態が続いている（赤外放射温度計¹⁾による。前期間は68～70）。湯だまりの色は乳緑色で変化はなく、また湯だまり内では土砂噴出は観測されず、引き続き噴湯現象が観測されている。

25日に陸上自衛隊の協力により行った上空からの観測では、中岳第一火口以外に熱異常は認められなかった。

火山性連続微動の振幅は8日からやや小さくなったが、24日から再びやや大きい状態となっている。その後の振幅には大きな変化はみられていない。

孤立型微動及び火山性地震の発生状況に大きな変化はなかった（前者の月発生回数は今期間2,320回、前期間2,284回、後者は今期間104回、前期間62回）。

噴煙の状況には特段の変化はなく、GPSによる地殻変動観測でも火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

気象庁地磁気観測所が行った地磁気全磁力連続観測によると、火山活動に伴う変化は認められなかった。

5) 現地観測を11月1日、8日、15日、25日及び30日に実施。

6) 湯だまり：活動静穏期中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約50～60の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起り始めることが知られている。

雲仙岳 [静穏な状況(レベル1)]

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、静穏に経過した。

霧島山(新燃岳) [静穏な状況(レベル1)]

地震活動は低調で、傾斜計及びGPSによる地殻変動観測でも火山活動に起因するとみられる変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

霧島山(御鉢) [やや活発な状況(レベル2)]

御鉢火口内で2003年12月に確認された噴気孔からの噴気活動は依然としてやや活発な状態が続いているが、30日に火口縁上100mまで上がる噴気が観測された他は火口縁を超える噴気は観測されず、消長を繰り返しながら次第に収まる傾向がみられる。

火山性地震の活動は低調で、火山性微動は観測されなかった。GPSによる地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

桜島 [比較的静穏な噴火活動(レベル2)]

5日に爆発的噴火(以下、爆発)が1回観測された。爆発に伴う噴煙等は雲のため不明であった。爆発が観測されたのは7月22日以来であった。この他、ごく小規模な噴火も時折観測され、噴火に伴う噴煙の最高は16日及び24日の火口縁上400m(灰白色)であった。

11月1日に鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)で降灰が観測され、降灰量⁷⁾は1g/m²であった。

7日に海上自衛隊の協力により行った上空からの観測では、山頂及び山腹の各火口の噴気の状態及び熱異常域に特段の変化はなかった。

火山性地震は長期的には少ない状態が続いており、火山性微動も少ない状態が続いている。

GPSによる地殻変動観測では、長期的には始良カルデラの膨張によるとみられる東西方向のわずかな伸びの傾向が続いているが、3月以降は伸びの鈍化が見られている。

7) 降灰量は前日09時～当日09時の総量を観測している。

薩摩硫黄島 [やや活発な状況（レベル2）]

噴火は観測されなかったが、噴煙活動は依然としてやや活発で、白色噴煙が硫黄岳火口から連続的に噴出しており、噴煙高度は火口縁上概ね 300 m で推移した（最高は 2 日及び 19 日の 800 m）。三島村役場硫黄島出張所によると、期間中、集落（硫黄岳の西南西約 3 km）で降灰はなかった。

火山性地震の発生状況に特段の変化はなく、火山性微動は少ない状態で経過した。

口永良部島 [やや活発な状況（レベル2）]

火山性地震はやや多い状態が続いており、月回数は 205 回（前期間 164 回）であった（図 5）。震源は新岳火口付近のごく浅い所と推定される。火山性微動は少ない状態で経過した。監視カメラ（新岳の北西約 4 km に設置）による観測では、噴気等は観測されなかった。

諏訪之瀬島 [活発な状況（レベル3）]

噴火が観測された日が 18 日間あったが、爆発的噴火はなかった。

1～5 日、7～10 日、12 日、18～19 日及び 23～28 日に噴火が観測された。爆発的噴火はなかった。噴煙の最高は 2 日に観測された火口縁上 1,500 m であった。その他の噴火では、噴煙の高

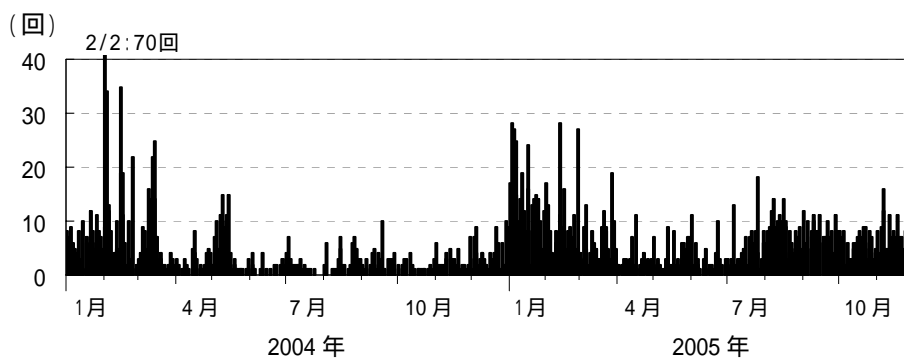
さは、4 日に火口縁上 1,000 m が確認された他は火口縁上 400～600 m であった（3 日は監視カメラ（御岳の北北東約 25 km の中之島に設置）、その他は十島村役場諏訪之瀬島出張所による）。同出張所によると 2 日、4 日、18 日及び 23 日に集落（御岳の南南西約 4 km）で降灰があった。

火山性微動は、2 日夕方から 11 日未明にかけて断続的に発生し、4 日から 7 日朝にかけて振幅のやや大きなものが観測された。その後、継続時間の短いものが 13～14 日にやや多く発生し、19～20 日には連続的に観測され、23～28 日には連続的なものも含めてやや多く発生した。

火山性地震は 27～28 日に多発し、日回数はそれぞれ 27 日 88 回、28 日 117 回であった。その他の日は少ない状態であった。

硫黄島 [静穏な状況]

11 月 1 日、9 日及び 11 日に海上保安庁が上空から行った観測によると、噴気活動に特段の変化はなかった。気象研究所及び東京大学地震研究所が共同で行っている地震観測においても、期間中の地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏な状態であった。



**図 5 口永良部島 火山性地震の日別発生状況
(2004 年 1 月～2005 年 11 月)**

資料 1 2005 年 11 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第 195 号	4 日 16:00	10 月 28 日～11 月 4 日 15 時までの活動状況。火山活動度レベルは 2。
	火山観測情報第 196 号	11 日 16:00	4 日～11 日 15 時までの活動状況。8 日実施の火山ガス観測結果。火山活動度レベルは 2。
	火山観測情報第 197 号	18 日 16:00	11 日～18 日 15 時までの活動状況。火山活動度レベルは 2。
	火山観測情報第 198 号	25 日 16:00	18 日～25 日 15 時までの活動状況。21 日の火山ガス観測結果。火山活動度レベルは 2。
三宅島	火山観測情報 第 550～579 号 (1 日 1 回発表)	1 日～30 日 16:30	前日 16 時～当日 16 時の活動状況、及び上空の風の予想。
阿蘇山	火山観測情報第 51 号	4 日 11:00	やや活発な火山活動が継続(湯だまりの表面温度やや高い、連続微動の振幅やや大きい状態継続)。火山活動度レベルは 2。
	火山観測情報第 52 号	11 日 11:40	やや活発な火山活動が継続(降水により湯だまり量約 8 割に増加、湯だまりの表面温度低下)。火山活動度レベルは 2。
	火山観測情報第 53 号	18 日 11:45	やや活発な火山活動が継続(湯だまり量約 8 割、湯だまり表面温度やや低い)。火山活動度レベルは 2。
	火山観測情報第 54 号	25 日 11:00	やや活発な火山活動が継続(連続微動の振幅やや増大)。火山活動度レベルは 2。

資料 2 過去 1 年間の火山活動の状況

火 山 名	H16	平成17年（2005年）												
		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
雌 阿 寒 岳	活動													
十 勝 岳	活動													
樽 前 山	活動													
吾 妻 山	活動 レベル													
草 津 白 根 山	活動 レベル													
浅 間 山	活動 レベル													
箱 根 山	活動													
伊豆東部火山群	活動													
伊 豆 大 島	活動 レベル													
三 宅 島	活動													
伊 豆 鳥 島	活動													
福 徳 岡 ノ 場	活動													
九 重 山	活動 レベル													
阿 蘇 山	活動 レベル													
雲 仙 岳	活動 レベル													
霧島山（新燃岳）	活動 レベル													
霧島山（御鉢）	活動 レベル													
桜 島	活動 レベル													
薩 摩 硫 黄 島	活動 レベル													
口 永 良 部 島	活動 レベル													
諏 訪 之 瀬 島	活動 レベル													
硫 黄 島 島	活動													

活動状況（活動）

：噴火した火山

：活動が活発もしくはやや活発な状態にあるか、観測データ等に変化のあった火山

火山活動度レベル

：小規模な噴火が発生かその可能性

：やや活発な火山活動

（桜島については、「比較的静穏な噴火活動」）

：静穏な火山活動

資料3 第102回火山噴火予知連絡会コメント

平成 17 年 11 月 2 日、第 102 回火山噴火予知連絡会が開催され、同連絡会は、最近の全国の火山活動について委員及び関係機関からの報告をもとに取りまとめ、終了後、気象庁から以下のとおり発表した。

第 102 回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動について

浅間山では、6 月以降火山活動に大きな変化はみられず、やや活発な状態が続いています。今後も火口付近に影響する程度の小規模な噴火は引き続き発生する可能性があります。

阿蘇山では、4 月 1 4 日のごく小規模な噴火以降、噴火の発生はありませんが、火口底の湯だまりの表面温度が高いなど、浅部の熱的活動は活発で火山活動はやや活発な状態が続いています。今後、火山活動が再び活発化する可能性があります。

三宅島では、火山活動に全体として大きな変化はなく火山活動はやや活発な状態が継続しています。二酸化硫黄を含む多量の火山ガスの放出は当分継続すると考えられます。

福徳岡ノ場では、7 月 2 ~ 3 日に小規模な海底噴火がありました。

全国の火山活動状況は以下のとおりです。

1. 北海道地方

雌阿寒岳（比較的静穏な状況）

- ・ポンマチネシリ 9 6 - 1 火口の温度の低下傾向が継続して認められ、地震活動、噴煙活動は共に低いレベルで経過しています。火山活動は比較的静穏な状態となっています。

十勝岳（やや活発な状況）

- ・6 2 - 2 火口は噴煙活動が活発で、火口内は高温の状態が続いています。火山活動はやや活発な状態で経過しています。火口近傍では注意が必要です。

樽前山（やや活発な状況）

- ・A 火口および B 噴気孔群では 4 0 0 以上の高温が続いており、火山活動はやや活発な状態で経過しています。火口近傍では注意が必要です。

有珠山（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

北海道駒ヶ岳（静穏な状況）

- ・噴気活動や地震活動に変化はなく、火山活動は静穏に経過しています。
- ・わずかな山体膨張は引き続き観測されています。山頂火口では緩やかな温度上昇やわずかな膨張傾向が認められます。

恵山（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

2. 東北地方

岩手山（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

秋田駒ヶ岳（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

吾妻山（静穏な状況【火山活動度レベル 1】）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

安達太良山（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

磐梯山（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

3. 関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

那須岳（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

草津白根山（静穏な状況【火山活動度レベル1】）

- ・火山ガス等に若干の変化がみられますが、火山性地震の回数や地殻変動には特段の変化は認められず、火山活動は静穏に経過しています。

浅間山（やや活発な状況【火山活動度レベル2】）

- ・昨年 12 月以降、噴火の発生はありませんでした。
- ・深部へのマグマ注入によると考えられる地殻変動は今年 6 月頃から次第に鈍化して、現在はほぼ停止した状態となっています。
- ・しかし、山頂火口内は高温状態が続き、高感度カメラでも微弱な火映現象がしばしば観測されています。
- ・また、二酸化硫黄の放出量は今年 4 月以降大きな変化がなく、やや多い状態が続いています。
- ・火山性地震および火山性微動は 8 月中旬まで減少する傾向を示していましたが、8 月下旬以降再びやや多い状態で経過しています。
- ・以上のように、火山活動はやや活発な状態で経過しています。今後も山頂火口付近に影響する程度の小規模な噴火が発生する可能性があります。火口周辺では引き続き注意する必要があります。

御嶽山（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

白山（静穏な状況）

- ・山頂付近で一時的な地震増加が時々見られていますが、山頂部には噴気は認められず、火山活動は静穏に経過しました。

富士山（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

伊豆東部火山群（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

伊豆大島（静穏な状況【火山活動度レベル1】）

- ・長期的な山体の膨張傾向は継続していますが、火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しています。

三宅島（やや活発な状況）

- ・今年 5 月以降、噴火の発生はありませんでした。
- ・山頂火口からの噴煙活動は活発で、二酸化硫黄放出量は 1 日あたり 2 千～5 千トンで、依然として多量の火山ガス放出が継続しています。
- ・一時的な地震増加がみられたほか、空振を伴う低周波地震も時々発生しています。
- ・地殻変動の傾向に変化は見られず、浅部での収縮、深部での膨脹が続いています。
- ・三宅島では、今後も小規模な噴火が時々発生する可能性はありますが、火山活動には全体として大きな変化はなく、やや活発な状態が継続しています。また、二酸化硫黄を含む多量の火山ガスの放出は当然継続すると考えられます。
- ・今後も局所的に高濃度の二酸化硫黄が観測されることがありますので、風下にあたる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも注意が必要です。

硫黄島（静穏な状況）

- ・島の中央部の沈降は継続していますが、火山性地震は比較的少ない状態で、火山活動は静穏に経過しています。

福徳岡ノ場（やや活発な状況）

- ・ 7 月 2 ~ 3 日に小規模な海底噴火がありました。その後も変色水が度々観測されるなど、火山活動はやや活発な状態で経過しています。

4. 九州地方・南西諸島

九重山（静穏な状況【火山活動度レベル 1】）

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

阿蘇山（やや活発な状況【火山活動度レベル 2】）

- ・ 今年 4 月以降、噴火の発生はありませんでした。
- ・ 火山性連続微動の振幅は、時々やや大きくなりました。
- ・ 火山ガスは 4 月 1 4 日のごく小規模な噴火に伴い一時的に増加しましたが、その後は静穏期のレベルで経過しました。
- ・ 湯だまりの表面温度は高い状態が続いています。
- ・ 赤熱現象は 9 月初めまでみられていましたが、その後の降雨による湯だまり量の増加に伴いみられなくなりました。
- ・ 以上のように、熱的活動は依然高い状態が続いており、火山活動はやや活発な状態で経過しています。今後、火山活動が再び活発化する可能性があります。そのような場合、噴石を火口外に放出するような噴火の可能性があります。火口周辺では注意が必要です。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

雲仙岳（静穏な状況【火山活動度レベル 1】）

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

霧島山

新燃岳（静穏な状況【火山活動度レベル 1】）

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

御鉢（やや活発な状況【火山活動度レベル 2】）

- ・ 地震、微動活動は静穏に経過しています。
- ・ 噴気活動は次第に収まる傾向が見られますが依然やや活発な状態で、火山活動はやや活発な状態で経過しています。

桜島（比較的静穏な噴火活動【火山活動度レベル 2】）

- ・ 桜島南岳では時折噴火が発生していますが、桜島の噴火活動としては比較的静穏な状態で経過しています。
- ・ 火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過しています。
- ・ GPS や水準測量による地殻変動観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張による変化が引き続き観測されています。

薩摩硫黄島（やや活発な状況【火山活動度レベル 2】）

- ・ 噴火の発生はありませんが、噴煙活動がやや活発で、火山性地震が時折増加するなど、火山活動はやや活発な状態で経過しています。

口永良部島（やや活発な状況【火山活動度レベル 2】）

- ・ 火山性地震はやや多い状態で経過しています。
- ・ 新岳火口付近の膨張傾向や熱的活動の高まりを示す全磁力変化が引き続き認められています。
- ・ 以上のように、火山活動はやや活発な状態で経過しています。今後の活動の推移に注意する必要があります。

諏訪之瀬島（活発な状況【火山活動度レベル 3】）

- ・ 噴火は時折発生しており、その中で爆発的噴火も発生するなど引き続き火山活動は活発な状態で経過しています。

世界の主な火山活動

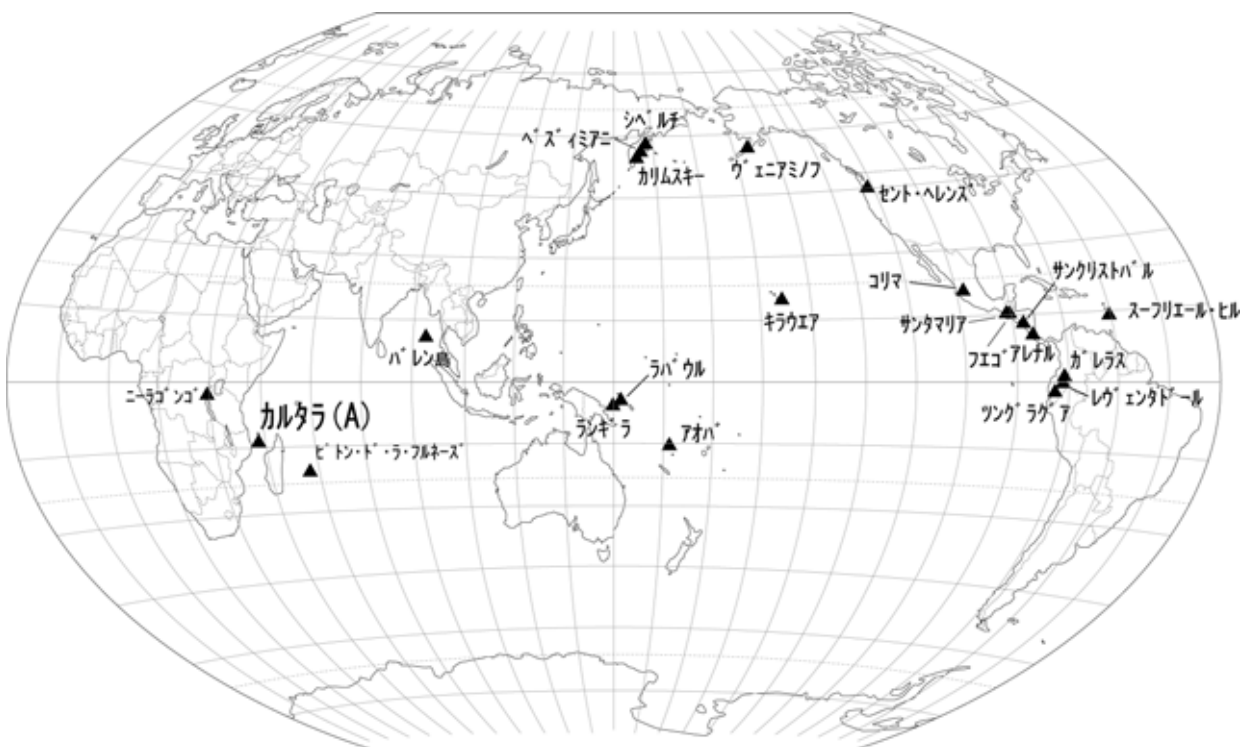
平成 17 年（2005 年）11 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。このうち、活動が活発であった主な火山は以下のとおりである。

カルタラ火山（コモロ諸島：インド洋）（図中 A）

カルタラ火山はコモロ諸島のグランドコモロ島の南部にあるハワイ型の楕状火山である。24 日夕方にマグマ水蒸気噴火があり、西側山腹及び島の南西岸に沿って、首都のモロニを含む幾つかの町で降灰があり、空港でも降灰があった。噴火活動はその後も続き、25 日には衛星からの観測で高さ約 12km まで上がる噴煙が確認された。カルタラ火山観測所によれば火口に溶岩湖が形成された。

国連人道問題調整室（OCHA）の報告によれば、島の中央部では約 2,000 人が一時避難をした。降灰はモロニ市の商店や学校を閉鎖させ、通りでは放水車による灰の除去が行われた。住民には灰を吸い込まないよう警告が与えられた。貯水槽の汚染により 75 村 11 万 8 千人の住民に影響が出るとの調査結果が出て、乾季の真っ最中であったため重大な関心事となった。国連の報告では、24 万 5 千人に火山灰の影響が出て、17 万 5 千人が水不足に直面すると推定された。降灰による被害は農作物及び家畜にも及んだ。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）



平成 17 年 11 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）